

公表

児童発達支援事業 事業所における自己評価総括表

○事業所名	ケアステーション県央		
○保護者評価実施期間	令和7年4月1日		～ 令和8年1月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 5名
○従業者評価実施期間	令和7年4月1日		～ 令和8年1月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	12名	(回答者数) 12名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月1日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・保育士、介護福祉士、看護師、理学療法士、作業療法士など各職種が専門性を活かして重症心身障害児に特化した療育活動を提供している。また、それぞれ内部や外部で研修を受けスキルアップをしている。	・重症心身障害児の特性に合わせた療育活動の提供、医療的ケアの実施。	・各種研修を重ね、全職員が専門性を活かして利用児の成長を促していく。
2	・保護者向けの勉強会や座談会を開催し、保護者同士のつながりの場や悩みを解消する場として提供している。また、きょうだい児支援として、親子行事や座談会にきょうだいも参加できる形にしている。	・事前に保護者の悩みを確認し、それに沿った勉強会や座談会にしている。 ・親子、きょうだい児も一緒に参加して楽しめるような行事や座談会を実施した。	・今後も様々な悩みに対応した勉強会やきょうだい児も一緒に楽しめる行事や座談会を実施していく。
3			

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・近隣住民や近隣保育園との密な交流ができていない。	・インクルーシブな支援の重要性も理解しているが、重症心身障害児という健康管理が大変重要な児をお預かりしているため、感染症防止の観点から密な交流の機会は設けにくい。	・散策の活動時に、積極的に近隣住民や近隣保育園と交流を図っていく。 ・今年度初めて三条市主催の「ツナガルフォーラム」に、利用者の作品展示という形で地域参加した。今後も地域の行事に参加していく機会を設ける。
2	・幼児が静かにお昼寝できる場所がない。	・一つのフロアで幼児から成人までお預かりしているため、テレビや音楽をつけずに静かにお昼寝できる環境を用意できない。	・一つのフロアの中でも、静かにお昼寝する場所を設けられるよう検討していく。
3			